

◇◇◇マスターズクラブ山行◇◇◇

マスターズ山行 大小山・大坊山

日時：2024年4月10日(月)

場所：足利市 大小山(妙義山 313.8m)、大坊山(285.5m)

参加者：《しっかり班》菱田、君島、大島

《ゆるやか班》牛窪、長、石井、鈴木(元会員)

行動概要：大小山ハイキング P8:15…妙義山 9:00…越床峠

10:50…ツツジ山 11:30…大坊山 11:40~12:50

…大山祇神社 13:10=大小山ハイキング P

○今回は参加者の力量に合わせて2班に分けて行動し、大坊山山頂で落ち合い昼食を一緒に食べることにした。前日の嵐のような天候と一変して朝から夕方まで快晴であった。

○8:15 大小山ハイキング駐車場を出発。10分足らずで阿夫利神社に着く。大小山には天狗が住むと言われ、大小山の名前の由来となった赤い大天狗と青い小天狗の面が神社にある。山道に入り、男坂と呼ばれる道を進み、仙間神社のところから東へ伸びる尾根に向かった。

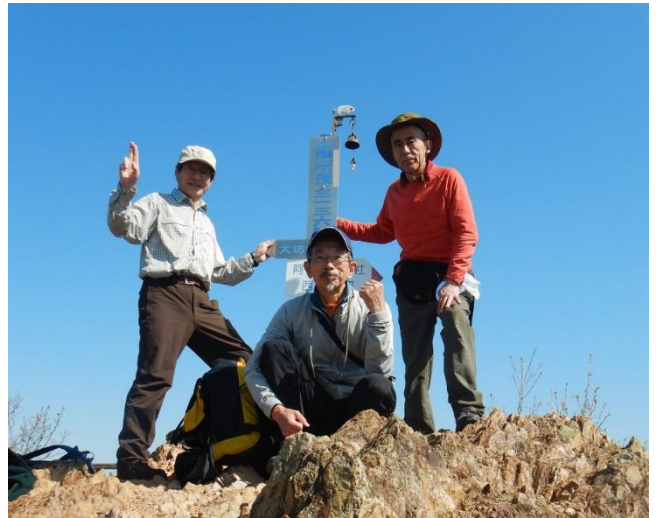
○8:45 尾根に上がると、展望が開け、富士山(麓でも見えていた)、東京のビル群、スカイツリーが望めた。ここからは、岩場が連続する。9:00 妙義山山頂(313.8m)に着く。地理院地図には、この最高地点の三角点のところに「大小山」と記載されているが、地元では、ここは「妙義山」。「大小山」は少し南の小ピーク、ちょうど「大」、「小」の文字の上。20分ほどのんびりと360度パノラマを楽しんだのち出発。ここから中岳、毛野山、越床山と三つのピークを越える越床峠までの間は、岩場が続き、想像していたよりきつかった。10:50 越床峠に着く。ここから先の北側斜面は碎石場のため立入禁止のロープが張られている。11:30 ツツジ山を通過。その名のとおり、まだあまり咲いてはいないが、多くのツツジが生えている。

○11:40 予定の時間ピッタリに、大坊山山頂(285.5m)に着く。大山祇神社奥の宮のあるとても広いところだ。奥の宮はとても小さなものだが、かつては大きな拝殿があったようで、礎石が残っている。ゆるやか班の到着を15分ほど待ち、全員そろって昼食をとった。足利の銘菓古印最中、イチゴ、冷たいヨーグルトなど、ゆるやか班からの差し入れが美味しく頂けた。天気が良く、風もなく、暖かいので、とてもおのびりできた。

○12:50 下山開始、20分ほどで、山麓の大山祇神社に着き、登山の安全のお礼をし、解散。

○しっかり班は、ここから舗装路をしばらく歩き、大小山を登り返す計画であったが、ここまでで結構疲れていたもので、無理をせず、車で大小山ハイキング駐車場まで送ってもらった。

○参加者が7名と前回と比べて多く、とても良い山行になった。力量に応じて、2班に分けたことも良かったと思う。



妙義山山頂



ツツジ山山頂直下



大坊山山頂



マスタース山行 安戸山

日時：2024年5月22日(水)

場所：那須塩原市 安戸山(1151.5m)

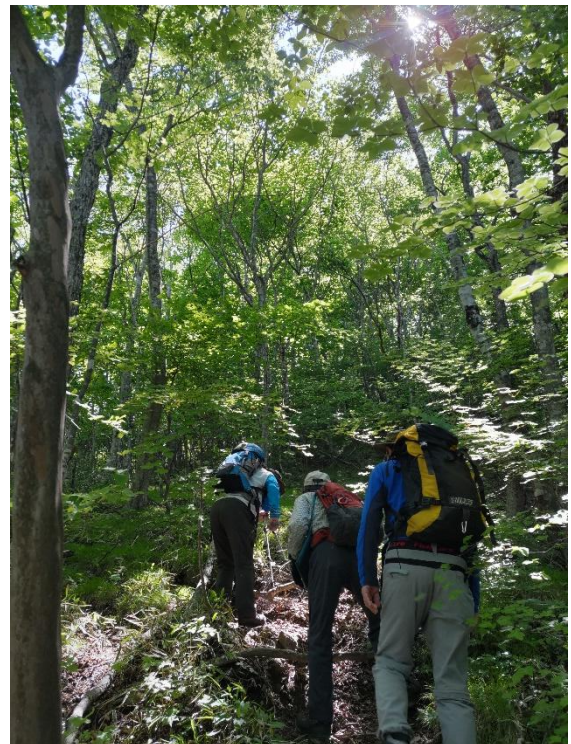
参加者：菱田、君島、大島、鈴木(元会員)

行動概要：墓沼公民館 8:10…林道終点(990m) 9:55…安戸山山頂 10:40…林道出合 11:35~12:20…道の駅ゆの香しおばら 13:55=墓沼公民館、解散

- 昨年の冬山山行で登った山に、季節を変えて、逆回りのコースで再び登った。
- 道の駅ゆの香しおばらに集合し、菱田車で墓沼公民館(標高約510m)に車を置いて、8:10 出発。両側とも植林されている単調でやや退屈な道を登って行き、9:50 廃道となった林道に出た。この辺りから広葉樹の自然林に変わり、青空が良く見えるようになる。5分ほどで広く平らな「林道終点」と呼ばれる地点(標高約990m)に着いた。短い休憩の後、再び山道に入った。頂上へは長い一本のロープの張られた急な登り。前回雪の中を下ったときはロープのお世話になったが、上りでは使わずに登れた。
- 10:40 山頂(標高1151.5m)に予定より20分早く到着。途中の標識の落書きにあったように、『何も見えない』である。すごく良く晴れているので、木々に覆われていなければ、素晴らしい眺めだろうに、残念。ここで昼食にする予定であったが、少し早いので、林道(登山道入口)まで下ることにした。ヤマツツジは、ほとんど終わりで、わずかに残るのみだった。また、この辺りはシラカンバが多く見られるが、太く大きい

ものばかりで、若い木はない。他の木の成長で日当たりが悪くなっているためだろう。

- 11:35 林道に出たところで昼食をとった。適度な気温で日差しが温かく、とても気持ちが良い。昼寝でもしていきたいところだが、12:20 出発。この後、まったく休憩することなく、道の駅ゆの香しおばらへ戻り、13:55 着。君島車で墓沼公民館へ行き、解散した。
- 途中で一人だけすれ違ったが、ほぼ我々だけの静かな山だった。





マスターズ山行 方塞山・横根山

日 時：2024 年 6 月 19 日(水)

場 所：鹿沼市 方塞山(1388m)・横根山(1372.9m)

参加者：《しっかり班》菱田、大島、鈴木(元会員)

《ゆるやか班》牛窪、長

行動概要：前日光ハイランドロッジ 9:00…方塞山 9:50…横根山 11:00…井戸湿原手前 11:35～12:10…象の鼻 13:25…前日光ハイランドロッジ 14:15

○今回も4月に続いて、参加者の力量に合わせて2班に分けた。出発時間をずらし、横根山山頂で落ち合い、その後一緒に行動した。

○しっかり班は、大島車で、前日光ハイランドロッジ(標高約1300m)に車を置いて、9:00 出発。前日光牧場内の舗装路を少し歩いてから、山道に入るが、牧場の柵に沿った道だ。前日とは違って変わって、雲ひとつない青空だが、木々の葉が強い日差しを和らげてくれて、吹く風が気持ち良かった。この時期ツツジやズミの花が終わっているが、エゾハルゼミの鳴く声がすごい。

○9:50、方塞山(1388m)山頂に到着。山頂は、なだらかで、しかも鉄塔があり、風情に欠ける。南側は牧場なので眺望が得られ、天気の良いので、富士山を見ることができた。計画では、往復で40分ほどの三枚石まで行くことにしていたが、そこまで行くと、ゆるやか班との合流に遅れるので、戻ることにした。

○合流予定の11:00ギリギリに横根山(1372.9m)山頂に到着。ゆるやか班は先着していた。ここは、ツツジの群落の中で、眺望がない。11:15、井戸湿原方向に進み、湿原手前の四阿、ベンチのあるところで、昼食をとった(11:35～12:10)。シカの食害を避けるための柵を通して、湿原エリアに入り、五段の滝へ向かった。五段の滝は、見ようによっては、三段にも七段にも見え、どこをどう数えて五段なのか分からなかった。花は少ないが、タツナミソウ、モミジカラマツなどが見られた。

○13:25、象の鼻(1368m)に到着。展望台があるが、雲が増え、遠くの見通しはあまり良くなく、皇海山などがシルエット状に見えるだけだった。展望台直下の牧場の柵の中に、100頭近いシカの群れがいて、のんびりと草を食んでいた。鹿避けの柵の外もあまり食害がないようだったのは、牧草を食べているからなのだろうか。ここからは、牧場内の道を下って、14:15、出発点の前日光ハイランドロッジ(休業日)に戻った。

○平地での真夏の暑さを避けるのに、絶好の場所であり、花の時期でないこと、平日であることから、出会った人は十数人と静かな山であった。



マスタース山行 白根山

日 時：2024 年 9 月 12 日(木)

場 所：群馬県沼田市・栃木県日光市 白根山(2578m)

参加者：菱田、村田、新本(関西支部)、枝典男(ゲスト)

行動概要：丸沼高原スキー場P…日光白根山ロープウェイ＝山頂
駅 9:15…弥陀ヶ池分岐 10:05…弥陀ヶ池 11:15
～55…弥陀ヶ池分岐 14:10…山頂駅 15:10

○目的地から一番遠い菱田が車を出し、枝、村田の家を回り、JR 日光駅で新本と合流して、丸沼高原スキー場駐車場へ行った。出かけるときは快晴で、宇都宮から見る日光連山のスカイラインがとても美しく、近づくにつれ男体女峰などの山々が輝いて見えた。

○ロープウェイで山頂駅(2000m)まで上り、そこから歩き始めた(9:15)。七色平の先の弥陀ヶ池に向かう分岐(10:05)までは、平坦基調の幅の広いハイキングコース。たくさんの種類と数のキノコが見られた。弥陀ヶ池へ向かう道は急登。この登りで、メンバーの一人の靴底が剥がれた(出かける前に目視確認はしたとのこと)。テーピングで応急補修をし先へ進む。弥陀ヶ池で、昼休憩とした(11:15～11:55)。村田さんが作っ

てきてくれた卵焼きとキュウリのお新香が美味しく、元気が回復した。この時点で、雨が時折ぱらつくが、山頂方向が望めた。のんびり休んだ後、ここからは岩場なので気を引き締め直して、出発。標高 2400m 付近で、別のメンバーがギブアップ(この夏の猛暑による運動不足か、携行したカメラ機材が重かったか)。そのため、二人は来た道をたどって下山することにした。

○残る二人は山頂(2578m)を目指したが、そのころから雨が降りだし、山頂付近は霧に覆われた。下山してきた人のアドバイスに従って、2500m 付近から引き返した。七色平の手前の弥陀ヶ池から下りてきた分岐で、四人合流した(14:10)。このころには雨は止んだ。キノコを観察しながら、山頂駅へ戻った(15:10)。ロープウェイで下山し、座禅温泉で入浴し汗を流した。

○雨で登頂をあきらめたのは、残念であったが、雨の量はたいしたことなく、雷もなく、危険度が増すようなことはなかった。来年シラネアオイが咲くときに再挑戦することを約して帰路についた。金精トンネルへの道で、激しい雨と濃い霧に包まれ、車で走るのも危険な状態となった。山中でこんな雨に会わないで良かった。



弥陀ヶ池



まだ山頂は晴れていた



左遠方：燧ヶ岳 中央：弥陀ヶ池 右：五色沼



マスターズ山行 那須岳・姥ヶ平

日 時：2024年10月16日(水)

場 所：那須町 那須岳・姥ヶ平

参加者：菱田、君島、村田、鈴木(ゲスト)

行動概要：峠の茶屋 P6:30…峰の茶屋 7:30~40…牛ヶ首 8:10…姥ヶ平 8:40…ひょうたん池 9:30…峠の茶屋 P

○峠の茶屋県営駐車場に集合。13日の新聞に「姥ヶ平は全体の7割ほどが色づいている。今週半ばをピークに20日ごろまで楽しめる見込みだ。」とあったので、混雑を想定していたが、天気予報があまり良くないためか、駐車場に車は多くなかった。予報に反して、雲は少なく青空が広がっていた。

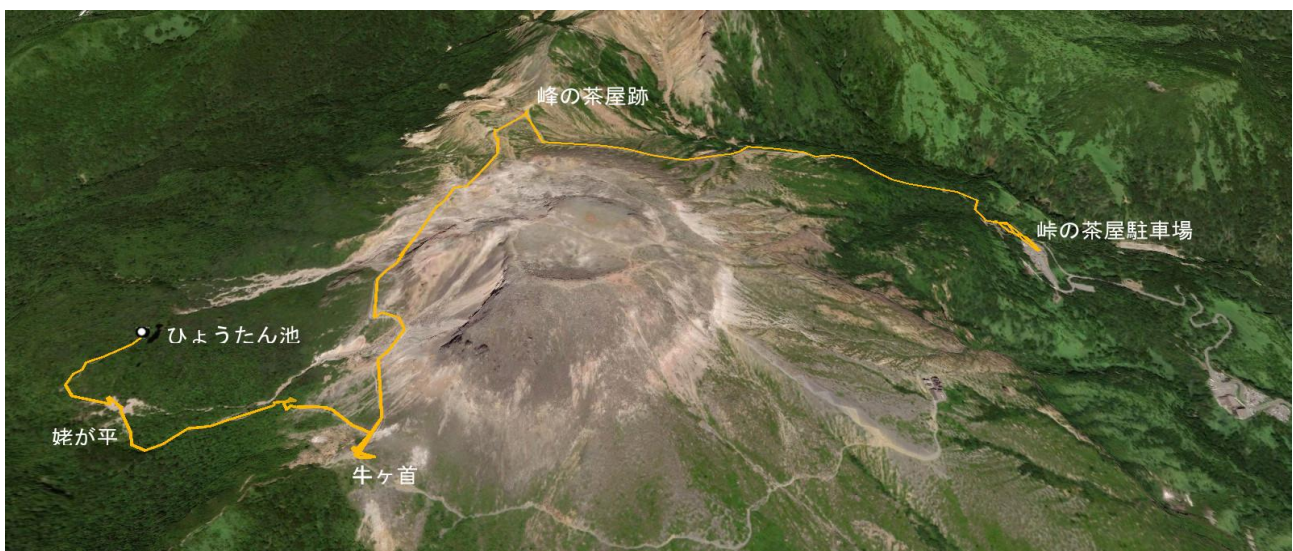
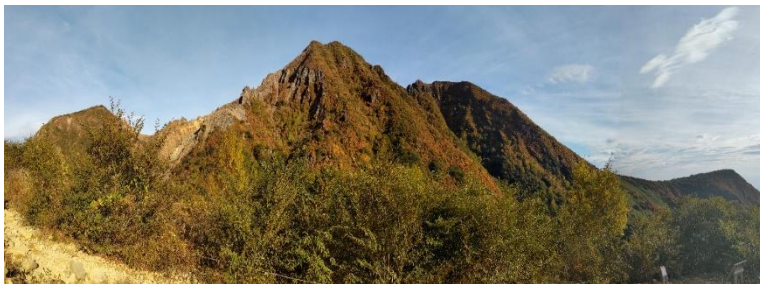
○6:30、駐車場を出発。樹林帯を抜けると、風が強くなった。沢の向こう側の朝日岳から鬼面山の斜面がとてもきれい。7:30、峰の茶屋跡に到着。この場所では普通のことだが、風が強く、ここからは登りではなく茶臼岳を巻いていくので、上着を再び着て、10分ほど休んだ。牛ヶ首に向け

て進むと、ほどなくして、今日の目的地、姥が平とひょうたん池が見えてくる。新聞のとおり、紅葉が素晴らしい。無間地獄のから吹き上がる水蒸気は、近年非常に少なくなっている。

○8:10、牛ヶ首に到着。絶景を楽しんだのち、ほんの少し戻って、姥が平に下った。8:40、姥が平に到着。あまりの美しさに時間の経つのも忘れてしまうほどだった。ひょうたん池まで行ったのち、9:30、帰路についた。

○当初の計画では、この後、茶臼岳山頂へ行くはずであったが、雲がだんだん低くなってきて、山頂がガスの中になってしまったので、まっすぐ下山した。

○その後、君島会員の経営する明賀屋本館と同じく、『とちぎ にごり湯の会』の中藤屋旅館で温泉という名の至福を味わい、さらに君島会員のお知り合いの店で、昼食をとって解散した。朝早く出かけたので、日差しがあるうちに紅葉が見られてとても良かった。山は、早い時間から行動するのが一番。



マスターズ山行 晃石山～馬不入山

日時：2025年1月15日(水)

場所：栃木市 晃石山(てるいしさん 419.1m)

馬不入山(うまいらずやま 345.2m)

参加者：菱田、君島、村田、大島

行動概要：清水寺 P9:30…晃石神社 10:25…晃石山
10:35…桜峠 11:25…馬不入山 12:00～45…
桜峠 13:15…清水寺 P13:50

- 予定より少し遅れて、9:30 清水寺駐車場(標高105m)をスタート。清水寺は「花の寺」として有名で、スイセン、ロウバイが咲いていた。ロウバイの咲く境内の坂の途中から晃石神社参道に入る。参道とはいうものの、結構急な山道を登って行く。10:25 晃石神社(390m)に到着。拝殿は山中によく作ったなというような立派なもので、本殿の装飾彫刻はとても見事なもの。ここは『稜線をたどるみち』と呼ばれる栃木駅から岩舟駅へのコースが通っており、東へ進むと太平山。我々は晃石山山頂を経て馬不入山へと向かう。
- 少し登って、10:35 晃石山山頂(419.1m)に到着。一等三角点があるが、ここの標石は21cm角で、普通の18cm角のものより大きい(なぜかは不明)。ここからは日光連山や富士山の眺望が素晴らしいはずで、頭上はキレイな青空なのだが、日光連山は雲に遮られ、富士山の方は強く霞んでいて、残念ながら、まったく見えなかった。
- ここまでは一気に登ってきたが、この先はアップダウンを繰り返す稜線歩きとなる。道は良く踏み固められて歩きやすい。桜峠(275m)への下りはやや急だが、すごく立派な手すりがあって安全に下れる。11:25 桜峠に到着。ここには四阿、ベンチがありゆっくり休むのに最適だが、馬不入山で昼食にすることとして、通過した。
- 12:00 馬不入山(345.2m)に到着。計画ではこの先の大明神山まで行くのだが、山休明けや喘息に苦しむメンバーがいたので、ここままで戻ることにした。昼食後、ほんの少し先の展望台まで行った。やはり頭上は晴れてはいるが、10数km先の大小山がようやく見える程度に霞んでいた。
- 12:45 戻り始める。同じ道に戻るのには面白くないので、地理院地図に記載されている馬不入山から100m余り戻ったところから下る道を探したが見つからず、桜峠まで戻った(13:15)。峠からは『関東ふれあいの道(かかしの里・ぶどうのみち)』を清水寺へまっすぐ下り、13:50 清水寺に戻る。この頃から雲が出て時折雨がぱらついた。
- 好天にもかかわらず、眺望がなかったのが残念だったが、風もほとんどなく、1月とは思えない暖かい日だった。平日なのに、多くの登山者がいたのには驚いた。
- ヒヤリハットもなく、無理しないよう計画のコースを短縮した。

※晃石神社：天平元(729)年の創立と伝えられています。当時、鏡石、神石という奇岩があって、日夜恍々と輝いたことにより、綾都比之神(あやとひのかみ)と称されてうやまわれたとされています。天長2(825)年、藤原冬嗣により杜額を賜り従五位下に叙せられました。天慶の乱の折、藤原秀郷が必勝を祈願して勝利したので、その霊験に感謝し天慶10(947)年、杜を再建し寄進したと伝えられています。兵火や山火事により何度か消失しましたが、今の建物は文政8(1825)年に再建されたものと言われています。本殿は檜材権現造柿葺で、装飾彫刻は磯辺凡龍斎信秀の作です。＜境内の看板(環境省・栃木県)＞



晃石神社



本殿彫刻



桜峠への下り



晃石山山頂



馬不入山山頂

晃石山遠望



マスターズ山行 鞍掛山・戸室山

日 時：2025 年 2 月 26 日(水)
 場 所：宇都宮市 鞍掛山(くらかけさん 492. 4m)
 戸室山(とむろやま)
 参加者：菱田、大島、鈴木(ゲスト)、枝(ゲスト)
 行動概要：鞍掛山登山口 9:05…猪倉峠 9:55…シゲト山 10:30…鞍掛山 11:15…大岩 12:00…鞍掛山登山口 13:00=戸室山神社 P…戸室山神社…戸室山…戸室山神社 P

○昨年 11 月に宇都宮森林公園から鞍掛山を目指したが、猪倉峠からエスケープしたので、今回は、鞍掛山登山口を出発点として、前回下った道を猪倉峠まで上がり、そこから前回計画したルートを進むことにした。

○9:05 鞍掛山登山口(標高約 220m)をスタート。最初は林道歩きのため、リーダー菱田の気が緩んでいて、間違った道を進んでしまった。少し下って本来の林道に通じる道へ行った。9:55 猪倉峠(約 385m)に到着。小休止して、山道に入る。ここからは、シゲト山、鞍掛山、大岩と尾根を進む。地理院地図に道の記載はないが、多くの人が歩いているようで、明瞭なルートである。岩が多いので低山ではあるが楽しめた。

○10:30 シゲト山(約 430m)に到着。この山は「鞍掛槍」とも呼ばれるとか。よく晴れていて、日光連山、高原山、那須連山まで見渡せた。10 分ほど休んだのち出発。11:15 鞍掛山(492. 4m)に到着。それまでとても穏やかな天気だったが、山頂に着いた頃から、風が吹き始めた。まだ時間が早いので、昼食は大岩でとることにして、出発した。

大岩までは、岩場のないならかな道だが、大岩にはアルミと鉄の梯子があってそれを登る。その名のとおり大きな岩である。その上で昼食をとり、宇都宮方面の景色を楽しんだ。12:00 再スタート。ここからは、階段がつけられたところもある沢筋を下るのだが、枯葉が段差を隠していたり、滑りやすかったりするので、注意して下った。途中、鞍掛山神社を参拝して、13:00 登山口に戻った。

○予定より 1 時間ほど早く下山できたので、戸室山へ行くことにした。途中、大谷コネクトで休憩したのち、戸室山神社駐車場に車を止めた。駐車場から中腹にある戸室山神社までは大谷石の階段を登る。神社は、社殿やいくつもある記念碑などから、かつては多くの人々の信仰を集めていたように思われるが、現在は少しさびれた感じである。神社の建物を回り込んで、山頂を目指した。この戸室山は、全体が大谷石からなっている。頂上に近づくと、大谷公園の入り口にある「天狗の投げ石」と呼ばれている石と同じような石がたくさんある。「天狗の投げ石」が戸室山から天狗によって投げられたものという話が納得させられる。このころになると、かなり強い風が吹いていた。前々日までとても寒い日が続いていたが、この日は暖かかった。午後になると風が強くなったが、2 月の山行としては快適だった。当日の宇都宮市の最高気温 16.3℃、最低気温-1.3℃、最大風速 13.2 m/s

○ヒヤリハット：道間違い。山中ではなかったので、危険はなかった。低山では、林道、作業道が多いので、計画したルートから外れていないか、地図をよく確認する必要がある。



シゲト山への道



鞍掛山山頂



シゲト山方向から見た鞍掛山

